

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	13-315	慶應義塾大学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Pharmacological challenge with naloxone and cue exposure in alcohol dependence: results of a randomized, double-blind placebo-controlled trial. ナロキソンによる薬理的チャレンジとアルコール依存へのキュー暴露： 無作為二重盲検プラセボ対照試験の結果。		
<b>執筆者</b>		
Lieb M <sup>1</sup> , Palm U, Chiang S, Laubender RP, Nothdurfter C, Sarubin N, Mokhtari-Nejad R, Koller G, Soyka M.		
<b>掲載誌</b>		
World J Biol Psychiatry. 2013 Sep;14(7):539-46.		
<b>キーワード</b>		
ナロキソン、アルコール依存		
<b>要 旨</b>		
<b>目的</b> 動物実験研究と臨床研究において、アルコール乱用と依存の病因においてオピオイド機能不全が関係していることを明らかにされている。 $\mu$ -オピオイド拮抗剤であるナルトレキソンは、最終的に視床下部脳下垂体 - 副腎系によって調整され飲酒の渴望を減らす。オピオイド受容体ブロックにより変えられたコルチゾールの反応は、アルコール依存症者だけでなく、アルコール依存症の家族歴をもつ人でも報告されている。		
<b>方法</b> 解毒治療を受けているアルコール依存症患者 20 例が、対象に入れられた。ナルトレキソン非常に類似の受容体プロファイルがあるナロキソン (3.2mg/70kg の体重) とプラセボは、48 時間の間隔で、2 つの別々の日に交差する形で投与された。気分と渴望感は、確立した手段 (Alcohol Craving Questionnaire (ACQ)、Profile of Mood Scale (POMS)) で評価された。患者と評価者は、すべての治療について盲目的とした。12 例の患者はナロキソンで初期治療され、8 例はプラセボを用いて初期治療された。		
<b>結果</b> ACQ と POMS によって、プラセボとナロキソン群の間に有意差は見つからなかった。コルチゾール濃度はナロキソン群で有意に高かった。		
<b>結論：</b> 我々は内因性モルフィン様物質系のブロックがアルコール依存症者で飲酒渴望を減少させるという結果を再現することはできなかった。一方、ナロキソン・チャレンジの後のコルチゾールの増加は視床下部-下垂体-副腎 (HPA) 軸の上のオピオイド受容体ブロックの期待される生物学的効果である。		